

## JFE Steel Group Companies

### Reorganization Aiming at “Only One” and “Number One”

JFEの事業再編にともない、JFEスチール・グループは本体および83の直属グループ会社によって構成されることとなった。JFEスチールから見た機能にしたがって領域別に各社を分類すると表1のような編成となっている。

資源・原材料分野では、従来からグループ内で製鉄副原料・耐火物・スラグ加工製品などの事業が行われてきた。また近年では、新たなマーケティング・商品開発をドライビング・フォースとして、新たな機能材料・製品事業が製鉄用途以外の分野で活発に展開されている。

電炉・条鋼分野では、全国7事業所において電炉鋼による条鋼製品の製造が行われているほか、JFEスチールの製鉄所における条鋼製品の圧延がグループ会社に委託されている。鋼材加工・加工製品分野では、表面処理鋼板、溶接

鋼管などの鋼材製造のほか、建材、容器などの加工製品事業が幅広く展開されている。また、薄板コイルセンター、厚板溶断といった流通加工事業がJFEスチール製品の円滑な販売をサポートする目的で展開されている。

設備分野のグループ会社は、製鉄設備の機械・電気・制御技術をベースに発展し、現在では設備管理、保全工事、建設エンジニアリングをグループ内外で展開するほか、機器製品事業も手がけている。一般建設分野に眼を転じると、土木・建築・鋼構造物などの領域で、設計・製作・施工および資材リース事業が営まれている。

鉄鋼業により培われてきた物流、技術関連業務および情報システムなどの領域もグループ事業として重要性が高く、各社によって事業の外部展開が積極的に図られている。

表1 JFEスチールのグループ会社

(2003年4月1日現在)

資源・原材料 (10社)	川崎炉材, 川鉄鋳業, 鋼管鋳業, JFE精密, JFEマテック, JFEマテリアル, JFEロックファイバー, 千葉リバーメント, 水島合金鉄, 水島リバーメント
電炉・条鋼 (4社)	エヌケーケー条鋼, ダイワスチール, 東北スチール, 豊平製鋼
鋼材加工・加工製品 (13社)	エヌケーケー鋼板, ガルバテックス, 川崎鋼管, 川鉄鋼管, 川鉄鋼板, JFE建材, JFE鋼管, JFEコンテナ, JFEチュービック, JFEテクノワイヤ, JFE継手, 日本鑄造, リバースチール
流通加工 (5社)	川鉄鋼材工業, JFE甲南スチールセンター, JFE電磁鋼板, 大和鋼帯, 東京シャリング
設備・工事 (7社)	川鉄アドバンテック, 川鉄電設, 川鉄マシナリー, JFEコンフォーム, JFEシビル, JFE設計, メンテック機工
鉄構・仮設 (4社)	川商ジェコス, 川鉄橋梁鉄構, JFEメタルファブリカ, JFEシステム
物流・作業 (4社)	エヌケーケーウィング, エヌケーケー物流, 川鉄物流, 福山スチールテクノロジー
知的財産・技術情報・ 試験・分析 (3社)	川鉄テクノリサーチ, 鋼管計測, 日本鋼管テクノサービス
情報システム (2社)	エクサ, 川鉄情報システム
電力・用役 (3社)	JFEサンソセンター, 福山共同火力, 水島共同火力
化学 (1社)	JFEケミカル
環境リサイクル (4社)	JFEアーバンリサイクル, JFE環境, ジャパン・リサイクル, 水島エコワークス
サービス一般・管財 (12社)	エヌケーエフ, エヌケーケーアップル, エヌケーケー福山サービス, エヌケーケーエス, 川鉄ライフ, 京葉シティサービス, ケー・エス・セキュリティー, ケージーアール, JFEマネジメントセンター, 福山テクノリサーチ, 水島ゼネラルサービス, 南愛知タウンサービス
施設運営 (8社)	海浜商業開発, JFE奥草津, JFE瀬戸内海エンタープライズ, 千葉新都心開発, 千葉熱供給, 富士川開発, 幕張タウンセンター, 鷺羽開発
商社 (3社)	エヌケーケートレーディング, 川鉄商事, JFE溶接棒

また製鉄所には、電力や各種用役のプラントおよび化学プラントが立地し、それらの運営はグループ会社に委ねられている。化学分野では、製鉄プロセスに由来する原料を用いたグループ会社独自の製品事業も発展している。さらに近年では、製鉄所の特性を活用した環境リサイクル事業が根つき、今後の伸長が期待されている。

このように、JFEスチールは広い範囲でグループ事業を展開しているが、それぞれの事業をグループとして保有する意義は、言うまでもなく収益面での貢献にある。このため JFE スチールでは、各事業の位置づけを明確化した上で、その育成と強化を図るため、グループ会社全般にわたって再編を進めていく方針である。

まず、旧 NKK および旧川崎製鉄のグループ会社が同一の事業を外部展開している領域では、グループ会社を統合することによって、最高効率の経営を追及する。ここでは、4月1日より JFEスチールとともに JFE 建材（日本鋼管ライトスチール・川鉄建材）、JFE コンテナ（川鉄コンテナ・鋼管ドラム）、JFE ケミカル（川崎製鉄化学事

業部・アドケムコ）の 3 つの統合グループ会社がスタートを切った。各社では、統合された事業戦略にもとづき、Only 1, No. 1 の商品・技術を拡大する中期計画を展開していく方針である。

次に、JFE スチールに対して同種の製品やサービスを提供している領域で、グループ会社の総合力向上および重複排除や機能集中による効率向上を主眼とする事業の再編を推進することとしている。この領域においても技術・商品開発対応力の強化は重要な視点となっており、最適体制の検討が進められている。

また、JFEスチールのグループ事業には、NKK および川崎製鉄のどちらかが手がけていなかった商品やサービスが少なからず存在している。経営統合によってグループが保有する商品や技術は、その間口と奥行きを増しており、新たなシナジーによるグループ事業の発展が期待される。今後、新たな視点からこれら事業の再認識・再評価を進め、Only 1, No. 1 の事業を JFEスチールグループ全体で育成していきたい。